

大学における総合歯科の現状と展望

藤井規孝^{1,8)} 田口則宏^{2,8)} 長谷川篤司^{3,8)} 木尾哲朗^{4,8)}
 多田充裕^{5,8)} 小川哲次^{6,8)} 樋口勝規^{7,8)} 伊藤孝訓^{5,8)}

抄録 総合歯科協議会は歯科医師臨床研修の必修化に関連し、全国各大学の総合歯科を担当する部署が後進の育成や診療、研究活動などを協議することを目的として平成19年に発足した。平成20年以降、この協議会では継続的に総会ならびに学術大会を開催しており、現在では国内すべての29の大学歯学部、歯科大学が参加して総合歯科に関する議論を重ねている。しかしながら、総合歯科として取り扱うテーマについてはいまだ明確にされていなかった。そこで今回、協議会の今後の活動方針や方向性を検討するために結成されたワーキンググループ(WG)がアンケート調査を実施し、各大学における総合歯科の実態を調査するとともに総合歯科のテーマに関するキーワードの調査を行った。その結果、24大学から回答が得られ、構成組織やスタッフ数、スタッフが加入している学会および学会認定の指導医あるいは専門医数、大学での担当業務、診療・教育・研究活動などが明らかになった。さらに、総合歯科のテーマに関する合意形成を行う際には「患者中心の歯科医療」「医療面接」「総合歯科治療計画」が重要なキーワードになることが示唆された。今回の調査により臨床実習や歯科医師臨床研修の充実のために大学において総合歯科を担当する部署の果たす役割は大きく、これらが今後さらなる展開を図るためだけでなく、将来の総合歯科を担う後進育成のためにも「総合歯科」に対する合意形成が必要不可欠であることが示された。

キーワード 総合歯科、卒前教育、歯科医師臨床研修、教育内容、日本総合歯科協議会

緒 言

平成18年度に歯科医師臨床研修が必修化されて以降、歯科医学臨床教育に関する議論はますます盛んになっている¹⁻⁶⁾。総合歯科を担当する部署のほとんどは臨床研修必修化の少し前から設置され始め、現在ではすべての大学歯学部、歯科大学に総合歯科に関連する分野や診療部が存在しているため、いわば日本全国において大学組織のなかに新しい領域を担当する歯学教育部署が誕生したと解釈することができる。総合歯科協議会は、このような背景を基に各大学の総合歯科担当部署における人材

育成、診療・研究・教育活動を議論あるいは協議することを目的として平成19年に発足した⁷⁾。本協議会ではその後継続して年1回の総会および学術大会を開催しており、現在では国内のすべての大学において総合歯科を担当する部署が参加して全体で合意を得ることのできるテーマを模索している。しかしながら、いままでの活動においていまだ明確な結論を得るにいたっていなかった。このため、本協議会ではこの問題を解決する糸口をつかむために平成23年度にワーキンググループ(WG)を結成して総合歯科協議会の活動に関する合意形成に向けて具体的に作業を開始し、各大学の実態を調査するためにアンケート調査を行った。そこで今回、総合歯科協議会の活動状況を報告するとともに各大学における総合歯科担当部署に対するアンケート結果を基に、その業務実態ならびに総合歯科協議会の今後の展望について報告する。

¹⁾ 新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部

²⁾ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻 社会・行動医学講座 歯科医学教育実践学分野

³⁾ 昭和大学歯学部歯科保存学講座総合診療歯科学部門

⁴⁾ 九州歯科大学口腔機能学講座総合診療学分野

⁵⁾ 日本大学松戸歯学部歯科総合診療学講座

⁶⁾ 広島大学病院歯系総合診療科口腔総合診療科

⁷⁾ 九州大学病院口腔総合診療科

⁸⁾ 日本総合歯科協議会

平成25年2月6日受付

平成25年5月27日受理